

コード No. 292-67801 (50 回用)

遺伝子研究用
8-OHdG 測定前処理試薬セット

【はじめに】

8-OHdG 測定前処理試薬セットは、酸化ストレスマーカーである 8-OHdG (8-ヒドロキシ-2'-デオキシグアノシン) 等の測定の前処理に使用するスクレアーゼ等酵素や buffer 類をセット化した試薬です。測定対象となる DNA 試料に対して、各々の試薬を所定量添加し、反応を進めることによって、スクレアーゼ処理状態のバラツキを軽減し、安定したストレスマーカーの測定に寄与します。

【特長】

- 1) 8-OHdG 測定の前処理に必要な酵素類や buffer 類をすべてセット化しています。
- 2) 反応のバラツキを軽減し、安定したストレスマーカーの測定に寄与します。

【キット内容】

| | |
|--------------------------|-------------------|
| 1) 酢酸バッファー | 950 μ L × 1 本 |
| 2) スクレアーゼ P ₁ | 500units × 1 本 |
| 3) トリスバッファー | 1mL × 1 本 |
| 4) アルカリホスファターゼ溶液 | 50 μ L × 1 本 |

【キット以外に使用する物】

- 試薬：
1) 減菌蒸留水 (DDW) : Code No. 316-90101
器具：
1) 分子量 10,000 スピン濾過型限外濾過器 (例：ザルトリウス社 VIVASPIN 500 code. VS0102)
2) 冷却式微量高速遠心機
3) インキュベーター (98°C, 37°C)

【保存条件】

冷凍保存 (-20°C)

【包装】

50回用

【操作方法】

(準備)

スクレアーゼ P₁ (凍乾品) に、DDW を 500 μ L 添加し、スクレアーゼ P₁ 溶液 (1U/ μ L) を調製します。スクレアーゼ P₁ 溶液は、冷蔵にて保管して下さい。調製後、約半年間ほど使用可能です。

(操作) 標準的な条件としてご利用下さい。

HPLC 分析の場合、DNA 濃度の変更が可能です。

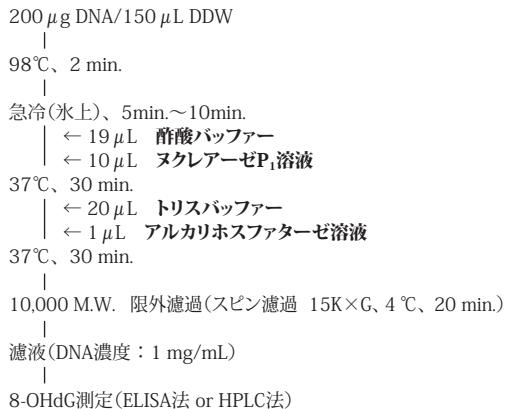
— 3/4 —

- (1) 200 μ g/150 μ L (= 1.33mg/mL) に調製した DNA 試料を、約 98°C で 2 分間煮沸処理します。
- (2) 氷水等で急冷して、5 分間 (~ 10 分間) 放置します。
- (3) フラッシュ遠心します。
- (4) 酢酸バッファー 19 μ L、スクレアーゼ P₁ 溶液 10 μ L を添加します。
- (5) 37°C で 30 分間インキュベーションします。
- (6) フラッシュ遠心します。
- (7) トリスバッファー 20 μ L、アルカリホスファターゼ溶液 1 μ L を添加します。(最終 DNA 濃度 : 1mg/mL)
- (8) 37°C で 30 分間インキュベーションします。
- (9) フラッシュ遠心します。
- (10) 分子量 10,000 スピン濾過型限外濾過器 (例 : ザルトリウス社 VIVASPIN 500 code. VS0102) の上カップに移し換えます。
- (11) 15,000 × G, 4 °C で約 20 分間遠心分離します。
- (12) 濾液を回収し、8-OHdG 濃度を ELISA または HPLC 等ご希望の方法で測定します。

スクレアーゼ処理した後 (濾液の状態) は、DNA 酸化の進行が早いので、なるべく早めに (できれば当日) 8-OHdG の測定に進むことをお勧めします。

フローチャート : 標準的な条件

HPLC 分析の場合は DNA 濃度の変更が可能です。



【関連商品】

| コード No. | 品 名 | 容 量 |
|-----------|-----------------|-------|
| 307-07921 | 高感度 8-OHdG チェック | 96 回用 |

製造発売元

富士フィルム 和光純薬株式会社

大阪市中央区道修町三丁目 1 番 2 号

Tel : 06-6203-3741

2306KA2

— 4/4 —